

平成 1 8 年度

公立大学法人 業務実績評価書

平成 1 9 年 8 月

福岡県公立大学法人評価委員会

目 次

年度評価の考え方	-----	1 ページ
各法人の評価		
1 公立大学法人九州歯科大学		
(1) 全体評価	-----	2 ページ
(2) 項目別評価	-----	3 ページ
2 公立大学法人福岡女子大学		
(1) 全体評価	-----	9 ページ
(2) 項目別評価	-----	10 ページ
3 公立大学法人福岡県立大学		
(1) 全体評価	-----	15 ページ
(2) 項目別評価	-----	16 ページ

年度評価の考え方

1 項目別評価（中期目標項目別評価）

評価委員会は、法人から提出された業務実績報告書等を基に、業務の実績等について調査・分析を行う。

これらの調査・分析を踏まえ、中期目標の項目（教育、研究、社会貢献、業務運営、財務、評価、情報公開）ごとに、中期目標・中期計画の達成に向けた業務の進捗状況及び特記事項の内容を総合的に勘案して、5段階で評価する。

- 5：中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある。
- 4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
- 3：中期目標・中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる。
- 2：中期目標・中期計画の達成のためにはやや遅れている。
- 1：中期目標・中期計画の達成のためには重大な改善事項がある。

2 全体評価

項目別評価を踏まえ、中期目標・中期計画の進捗状況全体を総合的に評価する。評価は、業務の実施状況、財務状況、法人のマネジメントの観点から、記述式で行う。

組織や業務運営等に係る改善すべき事項があれば記載する。

※ 評価委員会の評価は、各法人が中期計画において設定した業務実施の計画や達成目標等を踏まえて行なったものであり、法人間の相対評価をしめすものではない。

公立大学法人九州歯科大学

I 全体評価

1 総評

公立大学法人九州歯科大学は、設立団体である福岡県が定めた中期目標において、先端的な歯科医療の知識・技術を教授するとともに、高齢者の治療や健康管理指導ができる能力、患者の痛みを理解し、円滑な意思疎通ができる能力を身に付けた優秀な歯科医師を育成することを最も重要な使命としている。

今年度の業務実績の評価は、公立大学法人に移行して初年度の評価であり、人材育成のための教育を中心とした今後の取り組みを、着実に実施する下地づくりがなされているかということを中心として評価を実施した。

評価の結果、中期目標項目7項目中5項目（教育、研究、業務運営、財務、評価）について「順調に進んでいる」又は「おおむね順調に進んでいる」と評定、年度計画で定めた事業の実施や、実施に向けての体制構築がおおむねなされていると判断した。他の2項目（社会貢献、情報公開）については「やや遅れている」と評定したが、課題認識と今後の改善への期待を込めて、あえてやや低い評定を行った面もあることを申し添える。

以上のことを踏まえ、公立大学法人九州歯科大学の平成18年度の業務実績については、中期目標・中期計画の達成に向けて、全体としてはおおむね順調に進捗していると認められるが、これらの取り組みは、まだ緒に就いたばかりであり、今後の着実な業務の推進とその成果に期待する。

2 業務の実施状況

教育、研究、社会貢献に関する業務の実施状況については、社会貢献に関してやや遅れが認められるものの、おおむね順調に進捗している。

特に教育については、カリキュラムの見直し・改善を行なうとともに、教育効果を検証して教員にフィードバックするシステムを構築するなど、優秀な歯科医師を育成しようとする強い志が感じられる。

今後は、教育・研究の推進とともに、大学が保有する人材と高度な技術や情報等を活用し、公立の大学として積極的な社会貢献を推進されたい。

3 財務状況

財務の状況については、自己収入の増加、経費の節減の双方の取り組みにおいて、一部計画の遅れが認められるものの、全体としては、おおむね順調に進捗している。

附属病院については、地域住民のニーズを踏まえ、医療サービスの向上と経営効率化等に更に積極的に取り組み、経営改善に繋げていくことが望まれる。

財務運営にあたっては、今後ともより一層の経営努力に努めるとともに、適切な予算管理と、戦略的・効果的な予算配分を推進されたい。

4 法人のマネジメント

法人運営については、役員会、部局長会議、全学説明会の設置・開催によるトップマネジメント体制の構築に努めている。今後は、理事長のリーダーシップを支える人材の育成を進めるとともに、法人運営の意思決定システムについて、教職員へ一層の浸透を図ることが必要である。

また、法人の健全な運営のため、適切な自己点検・評価と積極的な情報公開を推進することが重要である。

II 項目別評価（中期目標項目別評価）

1 教育

評価	3 : 中期目標・中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる。
----	-----------------------------------

平成18年度の業務実績については、進捗が遅れている項目も認められるが、全体的にはおおむね計画どおり進捗していることから、総合的に判断し、3と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

(1) 地域の発展に貢献する歯科医師の育成

- ・成績評価基準の明確化や教育の成果・効果の検証といった、優秀な歯科医師育成のための一貫した教育システムへの取り組みが進んでいる。
- ・九州歯科大学が教育理念とする「高度な専門性を持ち、先端医療を担える歯科医師育成」の主軸となる口腔外科、歯科矯正科、歯周病科等の臨床専門教育等の見直しが図られ、学生の成績の向上等、その成果があがっている。

(2) 適性のある優秀な人材の確保・育成

- ・ティーチング・アシスタント制度（※1）及びリサーチ・アシスタント制度（※2）を当初計画より前倒しで導入し、優秀な大学院生の確保・育成に積極的に取り組んでいる。
- ・アドミッションポリシーの策定が遅れており、歯科大が求める人材の確保のためにも早期の策定が必要である。

※1 ティーチング・アシスタント制度

優秀な大学院生に対し、学部学生などに対するチュータリング（助言）や実験、実習、演習などの教育補助業務を行わせ、大学教育の充実と大学院生への教育トレーニングの機会提供を図るとともに、これに対する手当での支給により、大学院生の処遇の改善の一助とすることを目的とした制度。

※2 リサーチ・アシスタント制度

大学等が行う研究プロジェクト等に、大学院生等を研究補助者として参画させ、研究遂行能力の育成、研究体制の充実を図るとともに、これに対する手当の支給をする制度。

(3) 教育の質の改善

- ・教員の任期制同意率については、18年度末時点で94%に達しており、制度の定着を進め、組織に活力をもたらそうとする努力を評価する。
- ・学生による授業評価については、どのような人材を育成するかというところも踏まえ、評価方法や評価結果の活用等について、更なる工夫・改善が必要である。

(4) 学生への支援

- ・卒業・臨床研修後の就職支援体制（リクルートシステム）については、ハード面の整備にとどまっており、進捗が大幅に遅れていることから、その構築に向けて積極的に取り組む必要がある。

2 研究

評価	4 : 中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-------------------------------

平成18年度の業務実績については、年度計画を着実に実施し目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

- ・学内の競争的研究費の割合の増加、研究活動の事後評価・検証システムの構築、教員に対する外部研究費情報提供、ホームページによる研究成果の公表等の取り組みにより、研究水準及び研究成果の向上に向けた積極的な取り組みが行なわれている。研究活性化の指標としている論文数、学会発表数、外部研究費獲得件数についても増加しており、取り組みの成果として評価する。
- ・(財)北九州産業学術推進機構への情報発信を継続的に行い、県内企業との連携を推進している。

3 社会貢献

評価	2 : 中期目標・中期計画の達成のためにはやや遅れている。
----	-------------------------------

平成18年度の業務実績については、社会貢献事業の中心となるe-learningを活用したリカレント教育の進捗状況に遅れがあることなどから、総合的に判断し、2と評価する。

今後は、利用者のニーズも踏まえ、事業推進への一層の取り組みが必要である。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

- ・発展途上国を対象とした歯科保健システムの開発を行い、ネパールの4村をモデルケースとして歯科医療技術援助を行なうなど、

歯科保健医療の向上に貢献している。

- ・ e-learningシステムを活用したリカレント教育が実施に至っておらず、早急な取り組みが必要である。

4 業務運営

評価	4 : 中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-------------------------------

平成18年度の業務実績については、年度計画を着実に実施し目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

- ・ 運営体制や安全管理体制の整備、任期制の推進、19年度の個人業績評価実施に向けた準備等を着実に実施している。
- ・ 附属病院における事故防止対策については、医療機関としての重要な課題であることから、事故防止等の具体化と対応のスピードアップに向けたより一層の取り組みが期待される。

5 財務

評価	3 : 中期目標・中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる。
----	-----------------------------------

平成18年度の業務実績については、進捗が遅れている項目も認められるが、全体的にはおおむね計画どおり進捗していることから、総合的に判断し、3と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

- ・ 人間ドック、歯科ドックなどの検診業務の受託による収入増、外部研究資金収入増など、数値目標を上回る実績をあげている。
- ・ 平成18年度の診療報酬改定による附属病院収入の減収に対し、収入確保に積極的に取り組み、成果をあげている。
- ・ e-learningによるリカレント教育が実施に至らなかったことから、予定していた収入が確保できていない。

- ・附属病院経営改善策として実施を予定していた特定承認保険医療機関（※1）としての承認に至っておらず、また、外来患者にも適用を広げたクリティカル・パス（※2）の導入も遅れている。特定承認保険医療機関については、申請した1件が未採択となった理由を分析して今後活かすことが必要である。

※1	特定承認保険医療機関 新しい医療技術やニーズの多様化に対応することを目的として、高度先進医療の一部に保険給付が認められる施設。
※2	クリティカル・パス 一定の疾患や疾病を持つ患者に対して入院指導、患者オリエンテーション、ケア処置、検査、退院指導などをまとめた医療のスケジュール表。

6 評価

評価	4 : 中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-------------------------------

平成18年度の業務実績については、年度計画を着実に実施し目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

- ・平成19年度の自己点検・評価の実施及び個人業績評価の給与への反映に向けた検討等に取り組んでいる。
- ・なお、自己点検・評価は、今後の改善に繋げていくものであり、評価する点、課題とする点を法人自らが認識することが必要。今後も、評価方法の充実・改善を図りたい。

7 情報公開

評価	2 : 中期目標・中期計画の達成のためにはやや遅れている。
----	-------------------------------

平成18年度の業務実績については、情報公開推進や情報管理の取り組みに遅れがあることから、総合的に判断し、2と評価する。情報公開は法人に課せられた社会的責任の一部であり、今後一層の努力を期待する。評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

- ・ 情報公開に関するガイドライン未作成、個人情報保護に関する研修未実施など、具体的な体制整備が遅れている。情報管理の重要性を自覚し、早急な取り組みが必要である。

公立大学法人福岡女子大学

I 全体評価

1 総評

公立大学法人福岡女子大学は、設立団体である福岡県が定めた中期目標において、職場、家庭、地域など社会の様々な分野において重要な役割を担うことができる優秀な女性を育成することを最も重要な使命としている。

今年度の業務実績の評価は、公立大学法人に移行して初年度の評価であり、人材育成のための教育を中心とした今後の取り組みを、着実に実施する下地づくりがなされているかということを視点として評価を実施した。

評価の結果、中期目標項目7項目中5項目（研究、業務運営、財務、評価、情報公開）について「順調に進んでいる」と評定、年度計画で定めた事業の実施や、実施に向けての体制構築がなされていると判断した。他の2項目（教育、社会貢献）については「やや遅れている」と評定したが、課題認識と今後の改善への期待を込めて、あえてやや低い評定を行った面もあることを申し添える。

以上のことを踏まえ、公立大学法人福岡女子大学の平成18年度の業務実績については、中期目標・中期計画の達成に向けて、全体としてはおおむね順調に進捗していると認められるが、これらの取り組みは、まだ緒に就いたばかりであり、今後の着実な業務の推進とその成果に期待する。

2 業務の実施状況

教育、研究、社会貢献に関する業務の実施状況については、教育及び社会貢献に関してやや遅れが認められる。

教育については、教養教育における英語総合能力の強化や、e-learning を活用した学習支援プログラムの開発など計画を上回って実施した項目がある一方、カリキュラム見直しに関する項目の進捗の遅れや、管理栄養士国家試験合格率の著しい低下などもあり、教育全体としては進捗にやや遅れがあると判断した。

社会貢献については、女性生涯学習研究センターを中心とした公開講座や講演会等の積極的な取り組みを高く評価するが、リカレント教育や生涯学習の進捗の遅れがあり、社会貢献全体としては進捗にやや遅れがあると判断した。

今後、教育及び社会貢献に対するより一層の取り組みを推進されたい。

3 財務状況

財務の状況については、自己収入の増加、経費の節減の双方の取り組みにおいて、順調に進捗している。

財務運営にあたっては、今後ともより一層の経営努力に努めるとともに、適切な予算管理と、戦略的・効果的な予算配分を推進されたい。

4 法人のマネジメント

法人運営については、法人運営会議、部局長会議の設置によるトップマネジメント体制の構築に努めている。今後は、理事長のリーダーシップを支える人材の育成を進めるとともに、法人運営の意思決定システムについて、教職員へ一層の浸透を図ることが必要である。

また、法人の健全な運営のため、適切な自己点検・評価と積極的な情報公開に向けたより一層の取り組みを期待する。

II 項目別評価（中期目標項目別評価）

1 教育

評価	2 : 中期目標・中期計画の達成のためにはやや遅れている。
----	-------------------------------

平成18年度の業務実績については、進捗が遅れている項目がやや多いことから、2と評価する。

大学は、学生に対して常に質の高い教育を提供していく責務を有しており、教育の充実・改善に向け積極的に取り組むことが必要である。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

(1) 教養教育

- ・1・2年生対象の英語のカリキュラムをTOEIC対応に改め、取得点数が向上しており、英語総合能力の向上が図られている。
- ・教養教育の総合講座と個別講座の再編統合の見直しへの進捗が遅れている。

- ・ボランティアの単位認定制度については、プログラムの内容や評価方法等、十分な検討が望まれる。

(2) 専門教育

- ・人間環境学部について、19年3月に実施された管理栄養士国家試験合格率が低下しており、原因分析と早急な対応が必要である。

(3) 大学院教育

- ・文学研究科における夜間・休日開講の検討や人間環境学研究科における共通科目の充実については実施不十分であり、今後、学生のニーズも踏まえて検討を進める必要がある。

(4) 教員の教育能力の向上

- ・学生による授業評価については、どのような人材を育成するかというところも踏まえ、評価方法や評価結果の活用等について、更なる工夫・改善が必要である。

(5) 優秀な学生の確保

- ・多様な入試制度の導入、社会人入学者の履修年限の弾力化への進捗が遅れている。

(6) 成績評価

- ・GPA制度(※)の導入については、その前提となる教務システムの導入の遅れから進捗が遅れており、今後の取り組みを期待する。

※GPA制度(GPA=グレード・ポイント・アベレージ)

授業科目ごとの成績評価を5段階(A,B,C,D,E)で評価し、それぞれに対して、4,3,2,1,0のグレード・ポイントを付与し、この単位あたり平均を出して、その一定水準を卒業等の要件とする制度。

(7) 学習及び就職支援体制の整備

- ・ e-learning を活用した学習支援プログラム（補習授業を含めた総合的な基礎理科学力を身に付けさせる教育プログラム）の開発に取り組むなど、学習支援を積極的に推進している。

(8) 大学改革の推進

- ・ 理事長のもと、「抜本的改革部会」を立ち上げ、検討を実施している。

2 研究

評価	4 : 中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-------------------------------

平成18年度の業務実績については、年度計画を着実に実施し目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

- ・ 学内の競争的研究費の割合の増加・配分方法の見直し、設備・備品の有効活用など、研究予算を有効に活用する体制を構築している。研究活性化の指標としている学会発表数についても増加しており、取り組みの成果として評価する。
- ・ 産学官地域連携センターが中心となり、電子メールによる外部研究資金の情報提供、科学研究費補助金申請の学内説明会、共同研究の推進を目的とする産学官技術交流会の開催など、研究支援体制を整備している。研究活性化の指標としている外部研究費獲得件数についても増加しており、取り組みの成果として評価する。

3 社会貢献

評価	2 : 中期目標・中期計画の達成のためにはやや遅れている。
----	-------------------------------

平成18年度の業務実績については、リカレント教育や生涯学習の取り組みに遅れがあることから、総合的に判断し、2と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

- ・女性生涯学習研究センターを中心に、学術講演会や公開講座の実施に積極的に取り組み、数値目標を大きく上回る実績をあげており、高く評価する。今後も、ニーズを的確に把握し地域住民の生涯学習に資するとともに、内容の充実を図っていくことを期待する。
- ・科目等履修生制度を利用したリカレント教育や壮年・高齢者に対する生涯学習への進捗が遅れている。

4 業務運営

評価	4 : 中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-------------------------------

平成18年度の業務実績については、年度計画を着実に実施し目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

- ・運営体制の整備、任期制の推進、19年度の個人業績評価実施に向けた準備等を着実に実施している。
- ・安全衛生管理に関する全教職員の自己点検チェックの実施、消防計画の大幅見直し、安全・危機管理マニュアルの作成・全学生及び教職員への配布等、安全衛生管理の推進に取り組んでいる。

5 財務

評価	4 : 中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-------------------------------

平成18年度の業務実績については、年度計画を着実に実施し目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

- ・産学官地域連携センターが中心となった研究推進・外部研究資金獲得のための支援体制を整備し、数値目標を上回る収入実績をあげている。
- ・非常勤講師や特任教授制度導入などの措置により人件費抑制に努め、また、事務処理方法の見直し・効率化などにより光熱水費・通信運搬費の節減に努めた結果、数値目標を上回る実績をあげている。

6 評価

評価	4 : 中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-------------------------------

平成18年度の業務実績については、年度計画を着実に実施し目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

- ・平成19年度の自己点検・評価の実施及び個人業績評価の給与への反映に向けた検討等に取り組んでいる。

7 情報公開

評価	4 : 中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-------------------------------

平成18年度の業務実績については、年度計画を着実に実施し目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

- ・ホームページを大幅に改訂し、教育研究以外にもキャンパスの様子や卒業生の声を紹介するなど、コンテンツの充実を図っている。また、全教員を対象とした情報管理に関する講習会を開催するなど、意識向上に取り組んでいる。

公立大学法人福岡県立大学

I 全体評価

1 総評

公立大学法人福岡県立大学は、設立団体である福岡県が定めた中期目標において、人間社会学部と看護学部の連携のもと、関連する分野に関する幅広い視野を持ち、保健・医療・福祉の現場で中核となって活躍できる資質をもった優秀な職業人を育成することを最も重要な使命としている。

今年度の業務実績の評価は、公立大学法人に移行して初年度の評価であり、人材育成のための教育を中心とした今後の取り組みを、着実に実施する下地づくりがなされているかということを中心として評価を実施した。

評価の結果、中期目標項目7項目（教育、研究、社会貢献、業務運営、財務、評価、情報公開）について「順調に進んでいる」又は「おおむね順調に進んでいる」と評定、年度計画で定めた事業の実施や、実施に向けての体制構築がおおむねなされていると判断した。

以上のことを踏まえ、公立大学法人福岡県立大学の平成18年度の業務実績については、中期目標・中期計画の達成に向けて、全体としてはおおむね順調に進捗していると認められるが、これらの取り組みは、まだ緒に就いたばかりであり、今後の着実な業務の推進とその成果に期待する。

2 業務の実施状況

教育、研究、社会貢献に関する業務の実施状況については、おおむね順調に進捗している。

福岡県立大学の特色は、両学部連携、地域連携による業務の展開にあるが、法人化初年度において、附属研究所における連携プロジェクトや福岡県立大学・田川地域連携推進協議会による産学官連携推進など、今後の実施に向けた下地づくりが着実に進められたことを評価する。また、キャリアサポートセンターの設置、図書館の利用時間の拡大、地域と連携した朝食販売など、学生支援に積極的に取り組んでいる。

今後は、教育面での特色づくりの一層の推進を図りたい。

3 財務状況

財務の状況については、自己収入の増加の取り組みにおいて、一部計画の遅れが認められるものの、全体としては、おおむね順調に進捗している。

財務運営にあたっては、今後ともより一層の経営努力に努めるとともに、適切な予算管理と、戦略的・効果的な予算配分を推進されたい。

4 法人のマネジメント

法人運営については、学内理事による四役会、部局長会議の設置によるトップマネジメント体制の構築に努めている。また、全教職員を対象とした大学改革セミナーを開催し、意識改革に取り組んでいる。今後は、理事長のリーダーシップを支える人材の育成を進めるとともに、法人運営の意思決定システムについて、教職員へ一層の浸透を図ることが必要である。

また、法人の健全な運営のため、適切な自己点検・評価と積極的な情報公開に向けたより一層の取り組みを期待する。

II 項目別評価（中期目標項目別評価）

1 教育

評価	3 : 中期目標・中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる。
----	-----------------------------------

平成18年度の業務実績については、進捗が遅れている項目も認められるが、全体的にはおおむね計画どおり進捗していることから、総合的に判断し、3と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

(1) 教養教育の充実

・教養科目・基礎科目カリキュラムの見直し、全学共通教養演習テキストの作成等、教養教育の充実・改善に取り組んでいる。

(2) 専門教育の充実

- ・両学部の連携による他の専門領域を学べる教育プログラムの導入に向けた準備が遅れているが、福岡県立大学の専門教育の特色となる部分であり、今後一層の努力を期待する。

(3) 教員の教育能力の向上

- ・両学部が一体となってFD（※）に積極的に取り組んでいる。
- ・学生による授業評価については、どのような人材を育成するかというところも踏まえ、評価方法や評価結果の活用等について、更なる工夫・改善が必要である。

※FD（ファカルティ・ディベロップメント）

教員が授業内容・方法を改善し、向上させるための組織的な取り組みの総称。

(4) 学生の確保

- ・広報活動について、オープンキャンパス、入試説明会、出前講義、高校訪問等、数値目標を上回って実施し、意欲的に取り組んでいる。
- ・全国的な志願者の変化をみると、受験生の動向は実学志向となっており、社会福祉系の落ち込みが目立ち、課題となっている。福岡県立大学が学科見直しのモデルケースとなるような特色ある取り組みを期待する。

(5) 成績評価

- ・成績評価基準の見直し、シラバスの改善、GPA制度（※）導入の検討等、学生の質の向上に努めている。

※GPA制度（GPA＝グレード・ポイント・アベレージ）

授業科目ごとの成績評価を5段階（A,B,C,D,E）で評価し、それぞれに対して、4,3,2,1,0 のグレード・ポイントを付与し、この単位あたり平均を出して、その一定水準を卒業等の要件とする制度。

(6) 学生への支援

- ・地域と連携した朝食販売や稲作体験、図書館の利用時間拡大など、学生支援に積極的に取り組んでいる。

- ・キャリアサポートセンターの開設等により、キャリア形成支援及び就職支援体制が強化されたことは評価できるが、就職先アンケートが未実施であり、また、会社訪問件数も数値目標を下回っている。今後、事業推進への一層の努力を期待する。
- ・福岡県立大学はまだ歴史が浅い大学であり、今後同窓会との連携を深めるなど、学生支援体制を充実していくことが期待される。

2 研究

評価	4 : 中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-------------------------------

平成18年度の業務実績については、年度計画を着実に実施し目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

- ・附属研究所において、両学部の連携（生涯福祉研究センター（人間社会学部）、ヘルスプロモーション実践研究センター（看護学部））による研究プロジェクト等に積極的に取り組み、目標を上回る実績をあげている。
- ・産学官連携については、大学主体で「福岡県立大学・田川地域連携推進協議会」を立ち上げるなど、附属研究所を核とした連携体制の構築に取り組み、受託研究件数は目標を上回る実績をあげている。また、田川地域の知的インフラ整備を図るため知的財産セミナーを開催するなど、田川地域の企業や行政との連携推進に取り組んでいる。

3 社会貢献

評価	3 : 中期目標・中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる。
----	-----------------------------------

平成18年度の業務実績については、進捗が遅れている項目も認められるが、全体的にはおおむね計画どおり進捗していることから、総合的に判断し、3と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

- ・知的資源を活用した健康教室や相談事業、公開講座等に積極的に取り組んでおり、特に福祉・教育・健康に関する相談事業については、相談活動体制を整備のうえ前倒しで実施するなど積極的に取り組んでいる。
- ・中国、韓国の大学との学術研究や学生の交流に取り組み、従来からの中国南京師範大学に加え、韓国大邱韓医大学校と交流協定を締結したことは評価する。しかし、一方で留学生の受入対策が遅れており、総合的な視野に立ち事業を進めることが必要である。
- ・附属研究所生涯福祉研究センターにおいて、各種の研究会・セミナー等を開催するなど、地域支援に積極的に取り組んでいる。

4 業務運営

評価	3 : 中期目標・中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる。
----	-----------------------------------

平成18年度の業務実績については、進捗が遅れている項目も認められるが、全体的にはおおむね計画どおり進捗していることから、総合的に判断し、3と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

- ・運営体制や安全管理体制の整備、任期制の推進、19年度の個人業績評価実施に向けた準備等を着実に実施している。
- ・全教職員を対象とした大学改革セミナーを年間7回開催し、教職員の意識改革へ積極的に取り組んでいる。
- ・看護学部の教育研究組織の見直しに向けた検討が遅れている。

5 財務

評価	3 : 中期目標・中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる。
----	-----------------------------------

平成18年度の業務実績については、進捗が遅れている項目も認められるが、全体的にはおおむね計画どおり進捗していることから、総合的に判断し、3と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

- ・光熱水費や通信費の節減の徹底を通して経費抑制に努め、数値目標を上回る実績をあげている。
- ・学生納付金の未納額について、過年度分の回収率が目標を下回っており、回収に向けたより一層の取り組みを期待する。

6 評価

評価	4 : 中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-------------------------------

平成18年度の業務実績については、年度計画を着実に実施し目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

- ・平成19年度の自己点検・評価の実施及び個人業績評価の給与への反映に向けた検討等に取り組んでいる。

7 情報公開

評価	4 : 中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-------------------------------

平成18年度の業務実績については、年度計画を着実に実施し目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

- ・ホームページの改訂、情報管理体制の整備、個人情報保護規程の制定等、情報公開の推進に努めている。